

事例から知る訪問看護の豆知識②



前回の事例の続きを見ていきましょう！！

～パーキンソン病と戦うAさん②～

■リハビリメニューの工夫を

早速リハビリメニューに工夫をし、歩行練習を開始。

サッカーボールを両膝に挟んで、10m先のゴールまで低いハードルをまたいで歩くような歩き方を練習しました。Aさんは「まるで障害物競走みたい！」と楽しんで練習。訪問看護師がいない時は、家族と一緒に練習をしていました。最初は力を入れすぎてバランスを崩しそうになったこともありましたが、家族と共に毎日練習した成果もあり、1ヵ月後には杖歩行が可能となり、2ヵ月後には階段が上がるようにまでなりました。

■Aさんのその後

「今までは何だったんだろう」とAさんと一緒に大笑い。4ヵ月後にはトイレまで転倒せずに、自力で行くことができるようになりました。トイレに間に合わないことも減り、Aさんはますます明るくなりました。要介護度も2になり、Aさんと訪問看護師は努力の結果を喜びました。

※要介護度2：立上がりや歩行などで支えが必要な状態

ここがポイント！！



ご利用者と十分なコミュニケーションをとり、その方の個性を見つける。
そして、考え創意工夫し、看護に活かす。これが家での看護＝訪問看護です。
ご利用者を病人として、身体や精神面だけを看るのではなく、何気ない会話やちょっとした変化から「気づく」こと。
そういったことが訪問看護師にとって大事なことです！！